



# 勝地群馬

群馬県鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

JRと接続しないで、県都前橋と伝統織物の桐生の両市を結ぶ上毛電気鉄道（上毛電鉄）。通称「上電」の起点である中央前橋駅と西桐生駅が独立した始発駅だ。平日朝のラッシュ時を除いて、全駅で列車内への自転車の持ち込みが可能となっている。ユニークな試みである。

赤城山の南麓を、長い裾野の火山性扇状地を巻きながらコトコトと走行する上毛電鉄は、大正十五年設立。社長には「製紙王」といわれた大川平三郎が就任。昭和三年十一月に中央前橋―西桐生間を開業した。昭和七年には東武桐生線が相老から延伸して新大間々（現・赤城）に接続し、東武鉄道を經由して東京と繋がった。

昭和十一年作画の本図にもその路線が、当時の国鉄が赤線ルートで、民鉄は青線ルートで、東武なども同じ色だが、上毛電気路線は中央前橋―大胡―新大間々―西桐生の四駅のみを図示。本図の目的は山国群馬県

藤本一美  
首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会評議員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版 2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『勝地群馬 [群馬県鳥瞰図]』  
 (昭和11 (1936)年4月10日)  
 群馬県勝地協会 発行  
 京都市内の観光社出版部 印刷

## 上毛電気鉄道株式会社

Jomo Electric Railway Co., Ltd.

設立：大正15 (1926)年5月27日

営業：昭和3 (1928)年11月10日

本社：前橋市城東町4丁目1-1



### 絹産業の発展に貢献した歴史。 「地域の生活路線」として走り続ける。

前橋市と桐生市を23の駅で結ぶ25.4kmの路線。前橋周辺で作られた生糸を桐生で織物に仕上げ、東京・横浜方面に送るため、地元の電力会社や織物業者が発起人となり、昭和3年に開業した。地域産業の変化や自動車の普及などで利用人員の減少が続いているが、列車内に自転車を持ち込める「サイクルトレイン」を実施するなど、「地域の生活路線」としてのサービスと利便性向上に努力を重ねている。

また、開業当時の姿がそのまま残る大胡電車庫や西桐生駅舎など12つの施設が国の登録有形文化財に指定されており、貴重な文化遺産として保存しながら、現役の施設として活用している。中でも大胡電車庫では昔の鉄道部品や写真などを展示した「小さな鉄道博物館」を併設、希少な電車や電気機関車を含め、見学※に訪れる人たちに鉄道の歴史と文化を発信している。

※午後1時～午後3時30分、料金：170円、要予約



の景勝地・史蹟交通網(絵柄中の標  
 題は『群馬全県名勝史蹟交通鳥瞰  
 図』)を表現作画することだから仕  
 方ない。

特色のある大胆な構図の中心に  
 は、高崎や前橋・伊勢崎・太田・桐  
 生の市街地を配置し、点在する湯煙  
 の温泉群、浅間山や白根山、谷川岳  
 などの背後の山々が描かれている。

妙義・榛名・赤城連山のデフォル  
 メ(誇張)描写が傑作だ。鎮座する神  
 社は境内まで詳細に描写し、現在に  
 繋がる風景を連想させてくれそうだ。

左端には東京圏と堂々とした富士  
 山を入れ、右端に館林の茂林寺など  
 県域限界まで大きく扱っている。あ  
 えて北海道を小さく入れる技法を避  
 けている。その分、日光の中禅寺湖  
 や華厳ノ滝、男体山まで大きく巧み  
 に組み込んでいるのはさすが。

近年の上電に言及すると、昭和  
 四十三年にJR両毛線が電化され  
 ると、前橋―桐生間の所要時間・運  
 賃でも不利になり、国道の整備、マ  
 イカーの普及などもあって輸送人員  
 は減少傾向にある。駅の無人化、ワ  
 ンマン運転などの合理化、車両の譲  
 受など経営改善に努めている。私も  
 一助にと沿線の「富士山下駅」(す  
 ぐ近くに富士浅間信仰の富士山があ  
 る)や「わたらせ渓谷鐵道」までの  
 乗り鉄を楽しみたい。

※スマホ検索で富士急行の「富士山(ふじさん)駅」(平成23年富士吉田駅を改称)と間違えてしまうこともあるとか。